

第39回全国都市緑化北海道フェア

メイン会場 花の拠点／中島公園



1 主催者等 提唱 国土交通省
主催 北海道、恵庭市、公益財団法人都市緑化機構

2 開催時期 令和4年6月下旬から1か月程度

3 会場

メイン会場	花の拠点・中島公園、隣接する河川空間（恵庭市）
協賛会場（想定）	えごりん村、サッポロビール北海道工場、ふるさと公園、ルルマップ自然公園ふれらんど（恵庭市）
※いずれも未協議	イコロの森（苫小牧市）、いわみざわ公園（岩見沢市）、ゆにガーデン（夕張郡由仁町） 国営滝野すずらん丘陵公園、真駒内公園（札幌市南区）、民族共生象徴空間ウボポイ（白老郡白老町）など

花の拠点～気軽に花と触れ合い、観光客やレクリエーション客が時間を消費できる魅力のあるエリアをつくり、「花のまち恵庭」の知名度を高めるための観光拠点として平成28年度から整備中（令和2年度中完成予定）

【ガーデンエリア】

ゲートエリアを通り抜けた先に、ガーデンエリアの緑の芝生が広がる。周囲にテーマ性のある質の高いガーデンを配した中心的な場所で、野外ステージではイベントが行われます。
緑化フェア開催中に開催するイベントの主会場として計画。

【駐車場】

ガーデンエリア東側に新設予定。

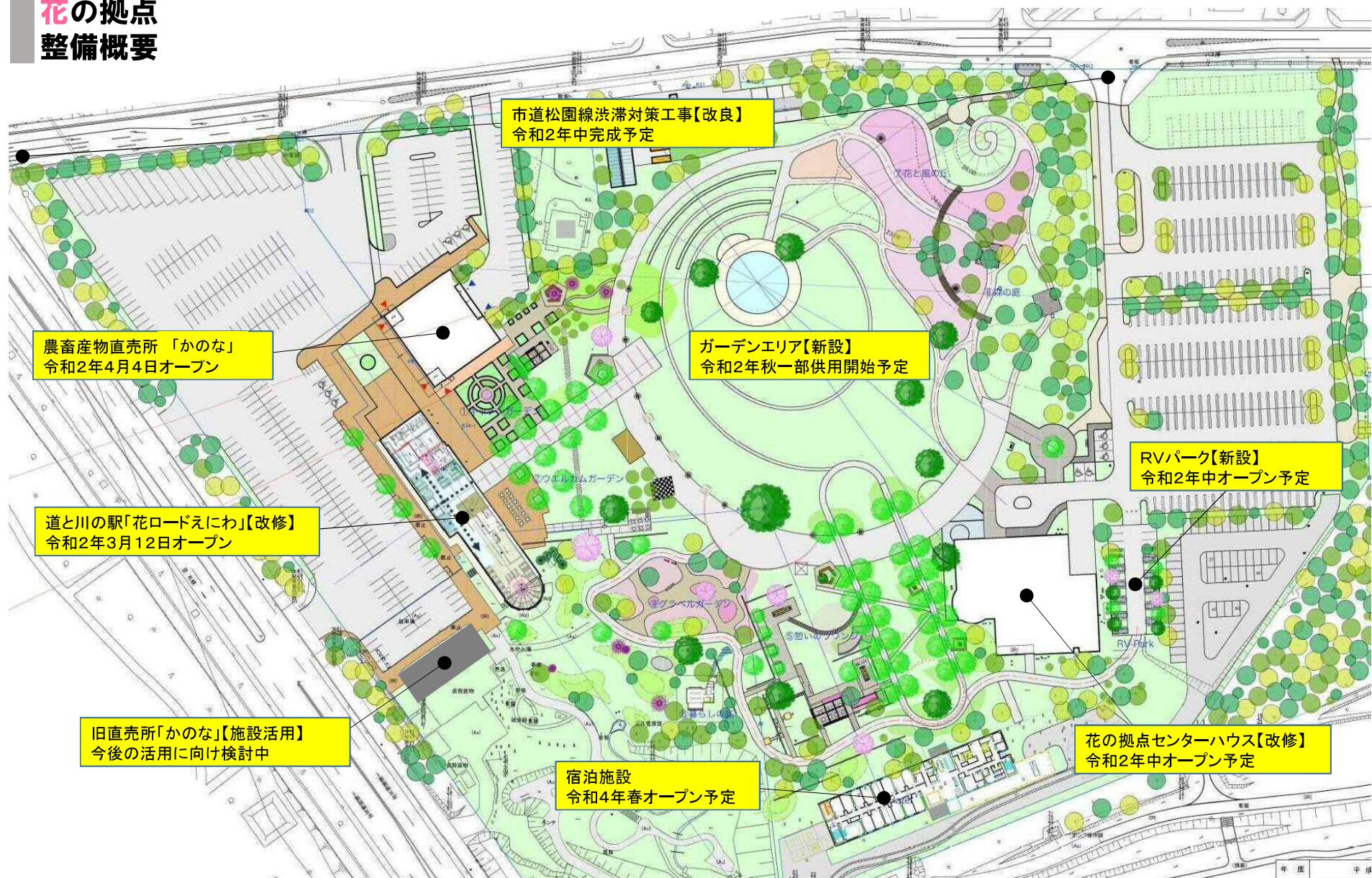
【センターハウス】

市民活動の拠点施設で、花文化や観光情報を発信します。

<恵庭かわまちづくり>



花の拠点 整備概要



全国都市緑化フェアの概要

1. 全国都市緑化フェアについて

- 昭和58年（1983年）以降、全国の持ち周りにより毎年開催
- 都市緑化意識の高揚等を目的とした、花・緑に関する国内最大級のイベント
- フェアの中心的行事である「全国都市緑化祭」は、昭和61年（1986年）より、皇室の御臨席のもと開催



2. 開催目的

緑化フェアは、次の事項を推進することにより、緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的として開催する。

- 都市緑化意識の高揚
- 都市緑化に関する知識の普及
- 国、地方公共団体、民間の協力による都市緑化の全国的な推進

3. 北海道での開催実績

正式名称：第4回全国都市緑化さっぽろフェア

愛称：'86さっぽろ花と緑の博覧会GREEN STAGE SAPPORO

主催：第4回全国都市緑化さっぽろフェア実行委員会（札幌市、（財）都市緑化基金）

提唱：建設省

会場：百合が原公園

会期：昭和61年6月28日（土）～8月31日（日）65日間

来場者数：約147万人

テーマ：人と自然—そのすばらしい関係

全国都市緑化祭：御臨席 德仁親王殿下



日本庭園



花のオリンピック広場



花の緑のステージでの開会式



開会式でのオープニングイベント

4. 開催時期・会期

原則として都市緑化月間（10月）を含む1箇月以上の会期で開催
(地域の自然条件等を考慮して、適当な他の時期に開催することも可)

【近年の状況】

開催年度	開催地	時期	開催日程	期間
2021年度 (令和3年度)	熊本市	春	3月～5月頃	2ヵ月程度
2020年度 (令和2年度)	広島県・広島市 他22市町	春～秋	R2.3.19～11.23 メイン会場：3/19～5/24 67日間	250日間
2019年度 (平成31年度)	長野県・松本市・ 大町市・塩尻市・ 安曇野市	春	H31.4.25～6.16	53日間
2018年度 (平成30年度)	山口県・山口市	秋	H30.9.14～11.4	52日間
2017年度 (平成29年度)	八王子市	秋	H29.9.16～10.15	30日間
2016年度 (平成28年度)	横浜市	春	H29.3.25～6.4	72日間

5. 会場

都市公園又は都市公園の設置が予定されている場所を主たる会場として開催



第33回横浜フェア
里山ガーデン（公園予定地） みなとガーデン（街中）

第35回山口フェア
県営きらら博記念公園

第36回信州フェア
県営松本平広域公園

6. 主催等

提唱：国土交通省

主催：全国都市緑化フェア実行委員会（地方公共団体、公益財団法人都市緑化機構）

7. 愛称、テーマ

【全国統一テーマ】

「緑ゆたかなまちづくり～窓辺に花を・くらしに緑を・街に緑を・あしたの緑をいまつくろう」

【近年の状況】

回数	開催地	愛称	テーマ
第37回	広島	ひろしまはなのわ2020	ひろしまはなのわ 2020 ♪「花笑（はなえみ）」 ひろしまから花と笑顔と平和のわ ♪
第36回	信州	信州花フェスタ2019 ～北アルプスの贈りもの～	北アルプスの麓から広がる 花と緑に包まれた しあわせ暮らし
第35回	山口	山口ゆめ花博	山口から開花する、みらいへの種まき ～150年を振り返り、次の150年につなぐ～
第34回	八王子	みどりの丘の花絵巻 はちおうじ2017	自然とまちと人を結ぶ『みどりの環境調和都市』
第33回	横浜	ガーデンネックレス横浜 2017	『歴史と未来の横浜・花と緑の物語』

全国都市緑化フェアの概要

8. 全国都市緑化祭

全国都市緑化フェア開催期間中の中心的行事として開催。例年、皇室の御臨席を賜る
主 催：国土交通省、地方公共団体、公益財団法人都市緑化機構
内容：式典（主催者挨拶、おことば、出展庭園コンテスト国土交通大臣表彰、
緑の社会貢献賞表彰、緑化宣言等）、植樹 他



出典：平成30年度全国都市緑化祭公式記録



全国都市緑化祭記念式典 出典：平成30年度全国都市緑化祭公式記録



フェア会場内の御視察 出典：平成30年度全国都市緑化祭公式記録



記念植樹 出典：令和元年度全国都市緑化祭公式記録

9. 緑化フェアの事業

フェアにおいては、次の各号に掲げる事業のうち、フェアの統一主題に応じて実施したものを行うものとする。

- (1) 都市緑化意識の高揚に関する事業
- (2) 都市緑化に係る知識の普及に関する事業
- (3) 都市緑化に係る技術の普及・向上に関する事業
- (4) 都市緑化に係る資材の頒布に関する事業
- (5) 都市公園の整備の促進に関する事業
- (6) 都市公園の利用の促進及び運営の活性化に関する事業
- (7) 前各号に掲げるもののほか、第1条の目的の達成のために必要な事業

(1) 都市緑化意識の高揚に関する事業

緑化の取組みの紹介や花と緑の修景による開催都市の魅力を演出するとともに、都市緑化に関わる活動への参加機会を提供することで、市民一人一人の参加意識の高揚につながる事業を実施



第33回よこはまフェア
市の花「バラ」の魅力で横浜らしさ
と魅力を発信する会場



第34回はちおうじフェア
あらゆる年代層の市民が参加した
市政100年の記念花壇



第30回とっとりフェア
砂丘をテーマに鳥取特有の風土
景観や資源の理解を深める展示

(2) 都市緑化に係る知識の普及に関する事業

緑の役割等に関する展示や体験型プログラム、講習会等を通じ緑化の知識の普及啓発を実施し、自然や緑とのふれあい、その大切さを理解できるような事業を実施



第33回よこはまフェア
横浜の未来の緑のまちづくりを
考えるシンポジウム



第32回あいちフェア
都市の緑の役割を紹介する
パネル展示



第33回よこはまフェア
緑のカーテンづくりなどの
ガーデニング講座

(3) 都市緑化に係る技術の普及・向上に関する事業

公園づくり、造園緑化、花き園芸等の技術の出展、屋上や壁面など都市空間の新たな緑化技術の展示等による普及啓発、フェア開催後の緑のまちづくりに活用できるような事業を実施



第29回TOKYOフェア
緑あふれるライフスタイルを提案し
技術を競う庭園コンテスト



第32回あいちフェア
壁面緑化の技術を
一堂にまとめて展示



第31回しづおかフェア
花き園芸産業の最新の取組みや
技術を紹介展示

全国都市緑化北海道フェア基本構想 概要版

1. 開催の意義

※本編 基本構想 P13

2-2 に記載（以下同）

■ 北海道の豊かな自然や花と緑の魅力の発信と更なる発展にむけたガーデン運動の推進

- ・北海道の自然や花と緑の資源と、これに関わる官民の取組みは、観光やまちづくりなど地域活性化の重要なコンテンツであり、地域社会においては暮らしに潤いを与え生活の質を高めることから、フェア開催を契機に更なる発展を目指します。

■ 花と緑豊かなライフスタイル、生活文化の創造

- ・盛んな花と緑のまちづくりに関わる市民活動の実績を広く全国に発信し、次世代を担う子ども達が住み続けたくなる、新たな人々が移り住みたくなる、心豊かな生活文化の創造を図ります。

→ 北海道の豊かな生活スタイルの発信

■ 花と緑の観光・地域産業の振興

- ・花と緑、ガーデン巡りを目的に訪れる人々が多い北海道で、観光資源としてツーリズムの定着を進めるとともに、農、食、健康、景観、環境、通信などの産業と連携した地域振興の促進を図ります。

→ 観光人口、交流人口の増加～道内に拡がる観光振興

■ 花と緑の新たな拠点における「観光まちづくり」の推進

- ・新たに整備が進められている「花の拠点」において、市民活動や民間活力との協働による花・緑観光を確立するとともに、「花のまち」としてブランドの全国的な発信の契機とします。

→ 花と緑のブランドの確立と発信

北海道の豊かな自然や花と緑の魅力の発信と更なる発展にむけたガーデン運動の推進

【暮らし・文化】

花と緑豊かなライフスタイル、生活文化の創造

- 北海道の豊かな生活スタイルの発信

【経済・産業】

花と緑の観光・地域産業の振興

- 観光人口、交流人口の増加～道内に拡がる観光振興

花と緑の新たな拠点における「観光まちづくり」の推進

- 北海道・恵庭の花と緑のブランドの確立と全国的な発信

北海道・恵庭における緑化フェア開催意義の概要

2. 開催の基本理念

※本編 3-1

豊富な森林湿原や湖沼等の雄大な自然に恵まれた北海道。

日々の生活の場においても自然は身近な存在であり、花や緑を愛する心が、暮らしに潤いを与え、安らぎと生き甲斐につながっている。

市民の主体的な花と緑の活動が続けられてきた恵庭市。

その実績は、“まちづくり”“ひとづくり”に大きな成果を生み、地域社会の元気の源となっている。

これまで築きあげられてきた“恵庭の花の文化・市民の文化”的魅力が集約され、更なる飛躍の地となる「花の拠点」をメイン会場に、北海道の花と緑の文化を広く全国に発信する全国都市緑化フェアを開催します。

3. 開催の基本方針

※本編 3-2

① 北海道ならではの花とガーデンの魅力で人々を感動させるフェア

- ・北海道の自然と人々により育まれた貴重で特有な資源を有効に活用します。
- ・最高の季節に彩り豊かなガーデンやまちなかにあふれる花と緑をつなぐ会場で来場者をもてなします。

② 希望と活力あふれる“花のまちづくり”を次の世代に継承するフェア

- ・これまで培われてきた、人のつながり、幸せを感じるまちづくりを、若い世代に引き継ぎます。
- ・将来を担う子ども達に、花と緑を慈しみ、郷土への愛着を育む機会を創出します。

③ “日々の暮らしの潤い” “地域の絆” “豊かな地域社会”につながるフェア

- ・花のまちづくりの先にある、ライフオリティの向上、思いやりのある地域づくりを目指します。
- ・地域のシンボルとなる拠点を活かし、観光・都市間交流・地域経済の発展を見据えて取組みを進めます。

④ 花と緑の取組の歴史と経緯を踏まえ、多様な主体が効果的に連携するフェア

- ・効果的かつ効率的でコンパクトなフェアを検討します。
- ・既存の施設やイベントを最大限有効活用します。
- ・民間活力の活用を検討します。

4. 開催テーマ

※本編 P15 3-3

(1)統一開催テーマ

『緑ゆたかなまちづくり』

～窓辺に花を・暮らしに緑を・街に緑を・あしたの緑をいまつくろう～

(2)北海道フェアのテーマ

「新たな公園のお披露目」「市民連携による花のまちづくり」「ガーデン連携による地域活性化」等のアイデアを持ち寄り、基本構想検討委員会等の議論を踏まえ、基本計画で定める

5. 開催の基本的事項

※本編 P16 | 4

1

- 1 主催者等 提唱 国土交通省
主催 北海道、恵庭市、公益財団法人都市緑化機構
共催 国土交通省北海道開発局

2 開催時期 令和4年6月下旬から1か月程度

 - 会場を彩る花や緑が最も華やかで多くの観光客が訪れる時期に合わせ開催します
 - 期間中、緑化フェアの中心行事である全国都市緑化祭を実施します
 - 期間中、恵庭市民に親しまれている恒例行事を開催します
 - 週末と平日、“イベント実施の賑わい期間”と“花と緑を対いで鑑賞する期間”等、メリハリをつけた開催運営を検討します

3 会場

メイン会場・まちなか会場	花の拠点・中島公園、隣接する河川空間、及び まちなか会場«市内の花のまちづくりの活動地域»（恵庭市）
協賛会場（想定） ※いずれも未協議	えこりん村、サッポロビール北海道工場、ふるさと公園、ルルマップ自然公園ふれらんど（恵庭市） イコロの森（苫小牧市） いわみざわ公園（岩見沢市） ゆにガーデン（夕張郡由仁町） 国営滝野すずらん丘陵公園、真駒内公園（札幌市南区） 民族共生象徴空間ウポポイ（白老郡白老町） など
スポット会場	駅や公共空間、イベントを行う会場など

- 4 入場料等 基本計画策定時に検討します。
※ 会場の一部エリアや有料施設、また、イベントやプログラムによって有料化を検討します。

5 目標入場者数 基本計画において設定します。
※ 検討材料として、会場の規模、事業内容、交通対策、道と川の駅「花ロードえにわ」等の来場者数等を勘案して設定します。
※ 誘致圏（市内、道内、道外、国外）を合わせて想定し、各計画に反映します。

6 愛称、シンボルマーク
※ 基本計画において、開催テーマを象徴し、北海道・恵庭らしく、広く道民・市民に親しまれるものを設定します。

7 事業費 基本計画策定時に概算事業費を算定します。
※ 検討材料として、事業内容、目標入場者数の設定、交通対策、入場料の設定方法等を勘案します。

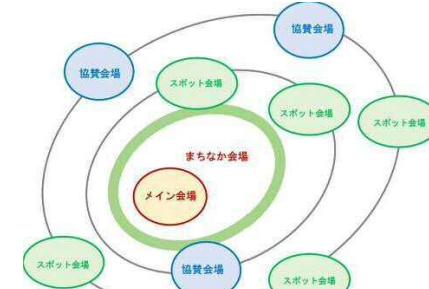
6 会場構成 ※本編 P18 4-4

本編 P18 | 4 -4

- 4 -

- メイン会場とえごりん村、サッポロビール北海道工場、イコロの森、ゆにガーデン、国営滝野すずらん丘陵公園、真駒内公園、民族共生象徴空間ウボポイ、周辺の都市公園、庭園、景勝地等を結びネットワーク型の会場構成を検討します。
 - 各会場では既存イベントを中心に回遊を促すプログラム等を展開。一体的プロモーションにより道内外、国外からの誘客促進につなげます。

■ 恵庭、北広島、千歳、札幌の周辺のガーデン施設と花と緑の活動拠点を連携



協賛会場：フェア開催期間にあわせ、フェアの冠を称して開催しますが、基本的には実行委員会事務局とは別組織（会場自体の運営主体）が、企画、構成、準備、運営等を行います。連携イベントの開催や広報宣伝等は一体で行い、フェアを協力して盛り上げます。

スポット会場：フェア開催を機会に花園の装飾や緑化に関連したイベント等を開催します。主要な交通拠点(駅、空港等)や学校、街中の花壇、町内会や市民団体等がこれまで実施している活動等も含みます。実行委員会事務局の協力・支援等により実施します。道内市町村及び民間施設と協議して基本計画以降に設定します。

7 「メイン+まちなか」会場計画 ※本編 p.27 5-2-1

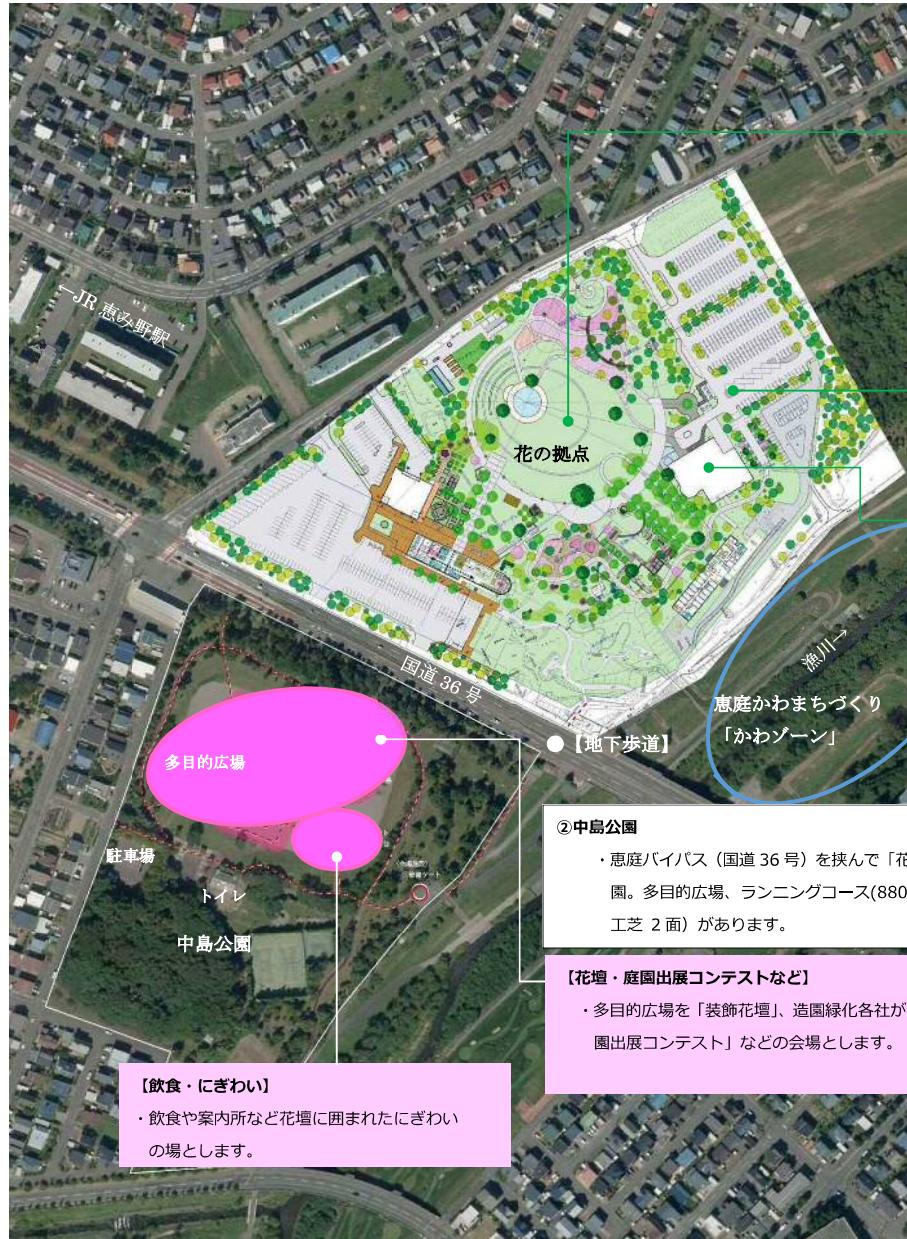
【特徴】

- メイン会場を中心に恵庭市内の“花のまちづくりの魅力”や“市民の日々の活動”を巡り 楽しみ実感できる会場構成
 - ・ メイン会場では、テーマ性のある質の高いガーデンを散策、野外ステージのイベントに参加し、センターハウスで花文化や観光情報に触れ、道と川の駅・農産物直売所で恵庭の食を味わっていただきます。
 - ・ 恵庭市内のオープンガーデン、市民活動場所等地域が持つ魅力的な資源を有効に活用し、最寄り駅からメイン会場に向かう手段として歩徒や自転車等、多様な提案をしながら「恵庭の花と緑の魅力」を満喫いただきます。
 - ・ 「恵庭だけ」「あなただけ」「日常を上質に」をキーワードとして、恵庭を楽しむ会場構成にする。

- #### ■ 花の拠点整備事業と恵庭かわまちづくり事業との連携

- ・ メイン会場「花の拠点」は 2021（令和 3）年度中のグランドオープンを目指して恵庭市が整備しています。「花の拠点」隣接地では 2018（平成 30）年度に国土交通省の認定を受けた「かわまちづくり事業」により河川空間の魅力向上と防災機能向上のための整備が行われており、当該区域を含めたメイン会場の構成とします。

メイン会場 花の拠点／中島公園



«会場コンセプト»

『恵庭のまちづくりと観光のbaseになる〈恵庭 Base Garden〉』

«展開イメージ»

①花の拠点

【ガーデンエリア】

ゲートエリアを通り抜けた先に、ガーデンエリアの縁の芝生が広がる。周囲にテーマ性のある質の高いガーデンを配した中心的な場所で、野外ステージではイベントが行われます。

緑化フェア開催中に開催するイベントの主会場として計画。



【駐車場】

ガーデンエリア東側に新設予定。

【センターハウス】

市民活動の拠点施設で、花文化や観光情報を発信します。

③まちなか会場 恵み野

«会場コンセプト»

『駅からのアプローチもガーデンだ 〈恵庭 Machinaka Garden〉』

«展開イメージ»

・花で飾られたJR恵み野駅から、恵み野商店街等を散策しながらメイン会場に徒歩で向かうことを想定。ルート上には商店街のガーデンテーブル、ポケットパークや商店・個人宅のオープンガーデンがあり、市民による花のまちづくりを実感しながらメイン会場に向かうアクセス路となります。



8 事業計画 ※本編 p.32~35

<p>(1)屋外展示計画</p> <p>※本編 P32 5-2-2</p>	<p>■ 花と緑の魅力で来場者をおもてなしする出展、展示を市民との協働、造園・花き関係業者、関係企業等と連携し策定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● メイン会場では、北海道の自然やガーデンの魅力を紹介。協賛会場や周辺のガーデンを巡りたくなる演出 ● 恵庭市の花のまちづくりを検証し歴史と成果を紹介。将来への継承を考えた企画展示 ● 花・緑を用いて暮らしの質を高める提案の場等 ● 市民ガーデナーや若手ガーデナーの競演・コンテスト、農や食をテーマにした畠レストラン等、賑わいやバラエティーのある演出 ● センターハウス等における雨天時にも楽しめるインドアグリーン、フラワーの展示やプログラムの実施 	<p>(5) 会場運営計画</p> <p>※本編 P35 5-4-1</p> <p>■ 恵庭ならではの“市民ボランティアと共に来場者をおもてなしする会場運営”を基本に、公園の管理者と連携した効率的な会場運営計画を策定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 会場案内、ガーデン管理等から講習会の講師やガイドツアーの案内役まで、花のおもてなしの豊かな経験を活かした会場運営 ● 主要行催事である恒例イベントの実施主体や協力頂いている団体、市内の学校、市内の造園組合、花苗生産組合等の皆様との調整を図り、運営の協力体制を構築 
<p>(2) 植物調達計画</p> <p>※本編 P33 5-2-3</p>	<p>■ 恵庭市内及び周辺地域、道内の生産状況や園芸産業の振興、今後のまちづくりに活用するため植物調達計画を策定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 植物調達は、会場の景観や雰囲気、伝えるテーマやイメージ、コンテンツの内容、目的等、会場計画に合わせ実施 ● 植物の生産調達体制、生産状況の調整、会場への搬入・施工・維持管理を円滑に推進するための総合的な監理体制の整備 	<p>(6) 交通輸送計画</p> <p>※本編 P36 5-4-2</p> <p>■ まちなか会場をメイン会場へのアプローチとして位置づけ、徒歩等でまちなかの花や緑を楽しみながら向かうことなど想定します。</p> <p>■ 円滑な来場者の輸送と会場周辺の生活環境に配慮した交通輸送を前提に、公共交通機関利用の推奨、来場者の安全性や快適性の確保、周辺環境への配慮を重視した計画を策定します。</p>
<p>(3) 広報宣伝計画</p> <p>※本編 P33 5-3-1</p>	<p>■ 道内及び北海道を訪れる国内外の観光客を対象に、恵庭をはじめとする北海道全体の地域資源、観光資源を発信する事業や各種キャンペーン等と連携し、観光業界、各種交通機関の協力を得ながら効率的かつ効果的な広報宣伝、観客誘致を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既存イベントの開催主体や北海道フェア連絡協議会の自治体の広報ソース・ツールを積極的に活用するとともに、民間ガーデンや公園の管理者と連携・協力した広報宣伝 ● 来場者や関心を持ってもらった人々のSNS等の発信力を期待し、インスタ映えするスポットを用意する等の方法を検討 ● 会場周辺の庭園やガーデン、地域の歴史や文化施設とタイアップしたツアー等を、観光業界、旅行業界等との連携、協力により企画・運営の検討 	<p>(7) 緑化の推進・フェアの継承・協働・参画計画</p> <p>※本編 P37 5-4-3</p> <p>■ フェアが一過性に終わることなく、地域に根ざす活動となるような仕組みを、市民とともに作り上げていくプロセスを検討します。</p> <p>■ 駅前広場等で来訪者をおもてなしする花壇や道路の植樹帯等での宿根草の植え付け等、市民ボランティアや民間活力によるフェア後にも続く緑化運動を推進します。</p>
<p>(4) 行催事計画</p> <p>※本編 P34 5-3-2</p>	<p>■ 「花とくらし展」等、市内の恒例イベントとタイアップし、更なる地域振興や賑わい創出につながる行催事計画とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オープンガーデンの魅力やガーデンづくりの楽しさを知つもらうための講習会、ガーデン巡りツアー（有料）を企画 ● まちなか会場では、恵庭市の花と緑を活かしたまちづくりの成果や魅力を実感できるものに。オープンガーデナーや近隣住民の意向を聞き取り、地域に配慮した企画づくり ● 花や緑に関する業界、学会等との連携によるシンポジウム、フォーラム（学生による研究発表、デザインコンペ等） 	<p>(8) 協賛会場との連携計画</p> <p>※本編 P37 5-4-4</p> <p>■ 協賛会場との連携について次のとおり計画します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 会場周辺の庭園やガーデン、地域の歴史や文化施設とタイアップしたツアー等を、観光業界、旅行業界等との連携・協力により企画・運営の検討 ● 各会場では既存イベントを中心に関連イベントを開催 ● 観光周遊の拠点として位置づけ、他会場への来訪を促すプログラム等を展開 ● フェアを契機に「ガーデンツーリズム登録制度」への登録申請の機運を高める

9 スケジュール ※本編 p.38

2019 (R01)	/	2020 (R02)	/	2021 (R03)	/	2022 (R04)
基本構想	基本計画	実施計画等				
★基本構想検討委員会 ☆連絡協議会	★大臣同意 ★基本計画検討会議	★実行委員会設立 北海道フェア実行委員会				
花の拠点整備室	北海道フェア準備室	北海道フェア推進室				北海道フェア開催